

世界と繋がる奈教

～奈教と世界のグローバルコミュニケーション～



奈教から世界へ

インドでの教員経験を振り返って

前田 久三代(平成19年度卒業生)

Go to the world!

2006年4月から2007年3月まで、所属しているNGOからの依頼をうけ、インドの小学校にボランティアに行くことになった。一年間のインドでの教員生活を終え、そこで得たものを次に述べようと思う。

インドの教育はかなりしっかりしていた。子供たちは日本人よりずっと熱心に勉強していた。九九を20×20まで暗記させる教育をし、英語で授業をしている。おかげで子供たちは暗算の力も英語の力もある。ところが日本と違って教師がかなり厳しい権力を握っていて、驚くことに日本では非難されるような体罰も認められている。それに関して私はこんな苦勞の経験をした。

私はある日、体罰を与えていたインド人の教員にそれはやりすぎだと抗議したことがあった。あまりにも痛くして胸が苦しくなってきたからだ。そうすると、驚いたことにその子供の親から批判を受け、私があやまらなければいけない立場になってしまった。それは文化の違いであって、そこでは従わねばならないことであると学んだ。インドでは町に牛が寝そべっている。燃料の材料にするために牛の糞を素手でとる。殆どが繊維なので全く汚くないという感覚である。美の感覚が違っている。私たち日本人からみれば不潔で汚れたガンジス川であるが、人々にとっては神聖であり、顔を洗い、洗濯し、神に近づくために死体を流す美しい川である。このようにその国にはその国の文化や伝統があり、それを尊重しながら付き合っていくことが大切であると学んだ。また、インドでは自分の専攻である科学が日常に身近に感じられた。ミルクを出す牛は常に妊娠しているからだ、日本の子供は知らないだろう。日本では、ステンレスの皿を使うので気付かないが、酸っぱいものを金属に載せると錆びてしまうと、インドの子供たちは生活の中で学んでいた。日本では便利になりすぎて気づかなくなっていた科学が発展途上国にこそ身近に生活の中に存在していた。私自身、経験においても知識においてもまだまだ勉強していかなければならないことが山ほどあるが、教員として生徒に伝えながら共に学んでいきたいと思っている。これからの教育現場において、国際理解教育の助けとなっていきたい。また人間は本来、自然とともにあり、そこには科学が存在していたということ。理科の授業を通して伝えていきたいと思っている。



授業風景



到着を待っていた方メランに地元の写真で取材され、新聞に掲載されました。日本人の先生来たという文面

Welcome to NARA!

世界から奈教へ

奈良に来て、よかった。

日本語・日本文化研修留学生 グエン・チャン・ミン

私は日研生として選ばれて日本に留学して来ました。初めて両親、また国から離れたのでいろいろ心配でした。今、6カ月が経ちましたが、最初の日の感情をまだはっきり覚えています。関西国際空港から奈良に向うタクシーの中で、出会ったばかりの友達も運転手さんもとても親しくしてくれましたが、それでもドキドキしたり、くよくよしたりする気持ちをおさめられませんでした。しかし、奈良に着き、静かな雰囲気を感じるようになって、何となく落ち着くようになりました。この感じは今も私がどこかへ旅行に行ってから、奈良に帰ってきた時の気持ちになりました。二月堂から見た夕日、あるいは奈良公園の広々とした芝生と鹿ちゃんの姿を見さえすれば、心がすぐ穏やかになります。いつのまにか、奈良のことが大好きになっていました。



ところで、奈良の景色、雰囲気だけでなく、奈良の人も優しく、親しくしてくれました。どこへ行っても、どんな場所においても、いつも熱心に手伝ってくれます。私の忘れられない良い思い出の一つは、ある日のバス停での話です。その日は、京都から結構遅く帰ったので、バスで帰ろうと思ったけれども、寮まで行くいつも乗っているバスがもうなくなってしまっていました。私はバスの時刻表と図をじっと見上げ、困った顔をしていたのだと思います。すると、1人の30代の男性が近付いてきて、事情を聞いてくれて、乗れるバスの番号を教えてくださいました。そのバスを待っている間、私たちはいろいろな話をしました。バスが来て、一緒に乗りましたが、私が財布から細かいお金を数えながら取りだしている間に、彼は自分の定期券で私の分のバス代も払ってくれてから降りて、行ってしまいました。私は何も言い出せなかったほど驚きましたが、乗客がどんどん乗ってきたので、皆に迷惑をかけないように席に座っているしかなかったのです。バスが走り始めた時、窓から後ろを見てみると、既に結構遠くを歩く彼の姿がまだ見えました。その姿が今も忘れられないです。その日のバス代はもちろんありがたいと思いますが、何よりも彼の優しく、熱心な心に非常に感動したのです。ベトナムの大学では、日本語だけでなく、日本人と日本のこともさまざまに教わったとは言っても、日本に来て自分で接したり、体験したりできることは、常により面白く、素晴らしいと思います。たしかに、良いことも良くないことも両方ありますが、結局心に残っているのは、この思い出のような良いものしかないと思います。

6月下旬

“一人の声は小さくて届かなくても、多くの声の一つにすれば叶う要望もあります!”

学生大会開催!

学生大会とは、学生団体の「最高決議機関」です。本学学生が講堂に集まり、議案や質疑応答などのディスカッションを行います。

皆さんから各委員会に寄せられた意見はこの会を通じて「学生全体の声」となり、大学側と話し合いをする上で重要な材料となります。この大学の学生の一人として、皆さんのご参加を心よりお待ちしております!

各学生団体・委員会の紹介

学生自治会

学生から寄せられる要望を集めて、学生生活の向上を目指して大学と交渉する、大学と学生のパイプ役を担う団体です。高校でいうところの生徒会に近いようなものですが、もっと自由で幅広い活動をしています。

体育会

体育会では体育系サークルの取りまとめを主な目的とする他にも、年2回の自由参加型のバレー大会やバスケット大会を行ったりしています。冬にはスキーやスノーボードのツアーを催したりといったイベントも行っています。

報道会

2006年に新聞から名称を変更し、学内の学生独自報道機関として学内外の出来事を記事として発信しています。昨年度は、タイムリーに情報を発信できるインターネットを用いた学生ポータルサイト「NAHOO!」の運用で数々の記事を掲載してきました。

大学祭実行委員会

大学祭を運営、管理する団体です。大学祭の準備以外にも、合宿に行ったりテニスをしたりと、アットホームな感じでやっています。大学生活を有意義にすることができるので、ぜひ皆さん準備室に足を運んで下さい。お待ちしております☆

文化会

文化系サークルの活動を支援する団体です。大学と協力してその活動環境を改善したり、活動が活発になるように働きかけます。また文化会独自のイベントなども毎年催しています。

生協学生委員会

学生の立場から生協の活動を行っています。年数回発行する「KARIN」などを通じて、学生の皆さんに密着して活動を行ったり、新入生歓迎行事や夏祭りなど年間を通して、皆さんが楽しめる企画を催しています。